

今年もやってきました…卒論・修論執筆応援号！

特集

先輩にお話を聞きました。



発行：京都大学 吉田南総合図書館 (愛称：逍遙館)

しょうようかん

〒606-8501

京都市左京区吉田二本松町

Tel : 075 (753) 6525

Fax : 075 (753) 6896

Email : eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

HP : <http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/>

Blog : <http://yoshidasouthlib.hatenablog.jp/>

Twitter : @yoshidasouthlib

HP



Blog



L
i
b
r
a
r
y

N
e
w
s
l
e
t
t
e
r

<臨時開館・開館時間延長> ～定期試験開始2週間前から実施！～

臨時開館・開館時間延長を、定期試験開始2週間前から実施します！

実施期間：7月10日(月)～7月27日(木)

※土曜日の開館時間延長、日曜日・休日の臨時開館は定期試験開始1週間前からとします。

7

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

00	9:00-21:00
00	10:00-18:00
00	10:00-18:00
00	休館
00	9:00-20:00
00	10:00-15:00

夏季特別貸出はじめます

特別貸出期間中はいつもより長く本を借りることができます。論文執筆中の方には文献収集の絶好のチャンス！論文執筆はまだ先…という方も、論文のテーマを決めるためには、早いうちから様々な学問分野に触れ、知見をひろめておくことが肝心です。この機会を是非ご利用ください！

■実施期間

学部生：7月21日(金)～9月27日(水)

院生/教職員：7月21日(金)～9月11日(月)

* 8月11日(祝)～20日(日)は夏季休館です。

■返却期限日 2017年10月12日(木)

* 夏季特別貸出の図書は更新できません。

■冊数(平常通り)

学部生：開架 5冊 書庫 10冊

院生：開架10冊 書庫 30冊

教職員：開架10冊 書庫 対象外



先輩にお話を聞きました。

昨年度に修士論文を提出されたお2人の院生さん（経済学研究科修士課程2回生, 人間・環境学研究科修士課程2回生（2017年2月のインタビュー当時））に、論文執筆中のこと、提出直前の過ごし方や、論文を書き終えた今の気持ちなどをお聞きました。

これから卒業論文に取り組む4回生のみなさん。

まさに修士論文を執筆中の院生さん。

初めてレポートや、論文を書く学部学生のみなさん。

この夏の研究活動の前に、先輩のお話を聞いてみませんか？

Hさん 経済学研究科 修士課程2回生

■初めに、修論のテーマを教えてください。

「サービス企業におけるイノベーションの持続的なアウトプットにつなげる組織能力」です。売上を持続的にあげるにはどういう企業能力が必要なのかというところを分析しました。

■論文提出直前はどのように過ごされていましたか？

お正月までには書き上げていたのですが、誤算だったのは字数の問題でした。

論文は用紙制限があつて、限られた用紙の中に文章と図表などを入れて仕上げます。用紙にめいっぱい書けたとしたら4万字まで入りますが、実際には図表等の関係で3万5千字程度になります。僕は初稿では4万字近く書いていて、かなりの量を削らないといけないことが提出の前日にわかつたので、直前はひたすら文章を削る作業をしていました。レイアウトをやり直し、どこを削つたらいかを試行錯誤し、結果、頑張つて調査したところも削ることになつて、残念に感じた部分もありました。

教務掛への提出は締め切り当日の午後3時くらいになりました。ギリギリですね笑。

■書き終わられた今の感想は？

もう少しやれることはあつたのではないかと思います。試問では、自分が指摘されたくない意識しているところをやつぱり指摘されますよね。指摘されたくないという意識があるなら、そこをカバー

しながら書く努力がもうちょっとできたんじゃないかなと、今となつては思います。出来は…努力は認めるが、次頑張ろうという感じ。とりあえず思つた通りのものが書けたかなとは思っています。今年平成29年の6月に学会にでることになつていて、そこで発表もするので、それまでには今の論文を修正して良くしたいです。今回の試問で、自分の研究が他分野の人にどう映るのかも、指摘されたことで大体わかつたつもりなので、それを次に生かしていきたいです。

■論文を書いていて一番苦労したことは？

いくつかあるんですが、統計知識があまりなかつたので、統計の勉強を一からするというのが一番しんどかつたです。ソフトの使い方を勉強しながら、自分の研究も並行してやらないといけなかつたので大変でした。

それでも、テーマが決まればそんなに苦労しないと思います。僕はなかなかテーマが決まらなかつたので苦労しました。修士1回生の頃は受けていた授業と自分のやりたかつた研究に関連する文献を広く浅く読んでいました。テーマは修士2回生の4月に決まりました。

■統計ソフトは大学院生に必須？

経済（学部）研究科）だつたら必須ですね。授業によつてはプログラミングから統計をしている人達もいます。論文にもよりますが、統計用ソフトのRのプログラミングを載せない論文をアクセプトしてもらえないなど、あつたほうが好まれる傾向にあるみたいです。

中面へ続く。

僕は学部頃の頃も全然ソフトの勉強をしていなかった。実際に手元にデータを用意できて初めてやる気になるタイプで……。学部生の時から統計ソフトの勉強は早めに行ったほうが絶対に楽だと思っています。ちなみにOS^{(*)1}にあるパソコンにはSPSS^{(*)2}がインストールされているのでほとんど使ったら良いと思います。卒論についても、研究によりまずく、ある程度自分でデータを取って何かを分析するのであれば、ソフトの勉強をやつていて損はないと思います。

■図書館をどのように使いましたか？

KULINEの論文検索^{(*)3}をよく使いました。 研究が進んでくると、概念とか単語がわかってくるので、気になったものを入力して検索していました。画面も見やすく、適度度順でソートできたり、検索結果からすぐに論文がダウンロードできたりするのが便利でした。インターネット上にPDF形式で無いもので、よく引用されている文献は実際の本にありました。**文献はRefWorks^{(*)4}で管理。** 使いやすく便利でした。

■自分の人生を方向付けた、影響された本はありますか？

野中郁次郎らの『失敗の本質…日本軍の組織論的研究』^{(*)5}からは多大な影響を受けました。日本軍の組織的失敗を多角的に描く中で、今考えるところ不可解で無謀な意思決定がされた理由を明らかにしていきます。分析内容の妥当性は一旦置くとして、その面白さ、鮮やかさは組織論研究を志す一つのきっかけになりました。野中氏と同じく経営学者である伊丹敬之の『創造的論文の書き方』^{(*)6}からは社会科学者に必要な考え方やものの見方を教えてもらいました。

■これから何を勉強してください。

春からシンクタンクでコンサルタントとして働く予定です。今まで経営学の勉強をしてきました

が、実際の現場はわかっていないのが現状です。政府に対しての政策提言がシンクタンクのメインタスク。まずはコンサルタントとして現場がどうなっているのかを知り、公共部門で日本の産業政策、働き方改革などに携わり、働いている人、経営者の方の役に立ちたい、というのが今の目標です。

■やはり、自分にとって研究とは何でしたか？

現場じゃない立場から提案できるのが研究だと思ふ。現実を変える手段、いわば羅針盤のような仕事だと思っています。研究をすることは大海原にでて、何かを見つけることに似ているのではないかと思います。材料を集めて、それらの使い方を考え、行先を決め、向かった先が新大陸だった、といったような、夢のある仕事だと思ふ。自分の中ではまだ、島とは呼べないほどの岩程度しか見つかっていませんが、この先、何か大きなものが見つければ、就職してからも、新しい何かが見つかることを信じて頑張りたいなと思っています。研究は終わつた感じがしないですね。研究は本当に大変なので、人生にはしたくはないですが……。でも、**答えの無い問いと答えを探しつづける、ある意味人生みたいなものかもしれないですね。**

〈番外編〉

Hさんには、試問についてもお聞きしました。

●論文試問の概要について教えてください。

試問は1月上旬にありました。発表も質疑も大体20分間。指導教官一人と別の経済研究科の教授二人(内容に拠つて先生が決まる。一人はある程度専攻内容に精通している人、もう一人は全く別の学問をしている人)の前で発表してその後質疑応答があります。判る人には細かいところをつつこまれ、わからない人にもわかるように説明を求められます。ちなみに人環の公聴会のように、大人数の前で発表することはありません。試問終了後、先生方が審議を行い、その後結果が知らされて合否がわかると

いう流れです。

●率直な感想は？

やっぱり先生方はすごいと思いました。突かれたくないところに指摘が入ります。論文の最後に今後の課題を書くのですが、それを考える際に、もうちょっと内容を詰めておいたほうがよかったです。そういう箇所があることは自覚していましたが、やはりそこを突かれます。準備不足を指摘されて、もうちょっと内容を固めておけばよかったなと思いました。論文自体には書いてあつても説明がうまくできずに伝わっていないかつたこともあります。時間や紙幅の関係上、ここはいろいろな箇所が逆指摘を受ける必要なのを十分に理解できてなかつたことに気が付きました。当たり前のことですが、**論文を書けば終了というわけではなく、発表もしつかりできないと、満足のいく出来とは言えない**なと思いました。

●先生の雰囲気は？

真摯に聞いていたので緊張はしませんでした。が、じっくり聞いてくださる分、その質問に答えられないとジレンマを感じました。

……Hさん、ありがとうございました。

今頃は、シンクタンクとして、熱い・アツい夏を過ごされているのではないのでしょうか。次は人間環境学研究科のYさんのお話です。

Yさん 人間・環境学研究科 修士課程2回生

■研究テーマを教えてください。

「**サイバー攻撃の抑止に関する考察**」です。

学部時代は他大学で情報社会論と国際政治学を勉強していました。学部3回生の時に1年間アメリカに留学をし、様々な国の留学生

と会つて話す機会に恵まれ、その人たちの国の話を聞いているうちに世界の国々ではいろいろなことが起きているんだな、と感じました。本人から直接聞く話には新たな発見があり、国際政治について興味を持つようになったことがこの研究分野に興味を持ったきっかけです。留学中には、欧米の歴史、政治学、東アジアの勉強など、いろいろしました。

■どうして修士に進もうと思われたのですか？

国際政治に関係がある仕事を将来したいと思つていたので、もう少し専門性を身に着けたいなと思つていました。英語で勉強できる環境で、なおかつ自分のやりたい研究ができそうな大学をインターネットで調べ、いくつか主要な大学に絞りました。それから今度はどんな研究をどの先生がしているかを探しました。そうしたら人環に林ブライアン先生がいらつしやつて、メールを送つたら会いに来て、と言つてくださり、受け入れを許可くださったので、入学試験を受けました。

■国際政治に興味を持たれたことについてもう少し詳しく教えてください。

世界で起きている事柄に、ある一定の法則性をみつけて説明しようとする、何かしらの理論でもって説明がされますが、そういった理論はニュースを見ているだけでは理解できません。でも、実際に政策決定する時に政策決定者がそういう理論を参考にしていたりすることもあるそうです。理論を知っていれば、国家が行う行動について、ある程度説明がつく部分が出てきます。例えば、第一次世界大戦や戦後の事などが、理論で説明できるようなので、理論を勉強していなかつた頃、高校生や中学生の時に勉強していた頃よりは、もうちょっと理解しやすくなるかなと思います。

とはいっても、理論を勉強したからといって、完璧に予想はできないのが実際です。今のアメリカ大統領のような指導者についても、彼の持っているバイアスもある程度政策に影響します

が、政策決定は大統領だけで行われるものではなく、指導者を決めた民衆の影響、事務的な政策決定をする官僚、議会での手続きなども含めた分析を行うことも国際政治の分野の一つです。僕の専門は、国際政治理論とアメリカの外交政策、あと安全保障論です。何故アメリカに絞ったかというと、日本の立場から見ると、日本の安全保障はアメリカに依存している部分が多いと思うので、アメリカの外交を見ていくことは日本の生命線にもなると思って、興味がわきました。かついいことを言っているんですが、単純に英語が好きで、英語が得意なものがないからかもしれません(笑)。

■提出直前の様子はどうでしたか？

論文提出は1月13日でした。先生の指導の陰で12月10日までに博士の先輩にダメ出しを貰い、修正したものを20日までに先生にみてもらいました。25日くらいに修正が返ってきて年末始めに書き直してまた見てもらって、あとは細かな部分だけ直したら提出していいよと言っていたきました。締め切り前日の12日には製本作業を終わらせ、提出当日は午前中に事務室に提出できました。

余裕をもつてできたのは、先生が前もって細かく締め切りを作ってくださったからだと思います。今年は修論を書く院生が多かったのですが、先生も、もし(論文の)大手術が必要になるようであれば、早めに言わないと間に合わないと思われていたようで、あらかじめ一度見せるように言われていました。僕の場合は、修士2回生の夏前頃から自分の研究について話す機会を持つてもらい、夏休み中には内容をまとめ、10月の発表の際に、論文の方向性や内容について先生と博士の先輩、他の院生の人たちからフィードバックをもらって方向を固め、実際に書き始めたのは10月でした。それまでは先行研究を調べたり、論文で使うような資料集めをしたりしていたので、10月から12月までの2か月間はひたすら書いていました。書くことも大変ですね。あと、準備段階でいろんな論文を読んで、使えるところや使えないところを選んだり、自分の興味や研究テーマを絞っていく作業は楽しくもありましたが、大変でした。

論文は日本語のものは少なくとも30本くらい、英語は40本くらい読みました。実際に論文執筆には使用しなかったものも含めれば、もう少し読んだと思います。日本語や英語に関わらず、専門とはいっても難しい用語もありましたし、内容が難しいから理解することに時間がかかりました。あと、読みながら最終的に論文にしたい場合はいちいちチェックしておかないといけないので、使うところと使わないところをちゃんと調べようとしながら読むとうつと集中しないといけないから大変でした。タイトルとアブストラクト(要旨、抄録)みたら使えそうと思っても、内容を読んだら自分の欲しいものがあまり書いていなくて、読んだのに結局使わない文献もでますしね(笑)。

僕は論文はすぐに印刷して、ペン入れしながら読むのが好きで、使いたい箇所が見つかったら付箋やマーカーでチェックしていました。併せてEvernote(エバーノート)を文庫別に分け、論文タイトルと中身を簡単にまとめて整理していました。印刷したものは机に山積みになってましたけど(笑)。

■書き終わった今の感想は？

論理はしっかりとしている、と先生方には言っていたかったです。確かに頑張ったところなので、評価してもらって嬉しかったです。ですが、細かい部分で必要な説明を十分にできていない箇所があったことが残念です。論文の中に書いてはいるんですけど、重要なところに対して説明を求められたので、納得してもらえないようにもう少し説明を書いておけば良かったと思います。

指導教官や研究室の人からフィードバックを貰うんですけど、彼らはずっと僕の研究の話をきいている人たちだということもあって、「僕の言っていることをわかってくれるだろう」という気持ちがありました。でもそんなことは勿論なくて、このテーマに親しみの無い人に対しても、納得してもらえないようなわかりやすい説明を集中的にやったほうがよかったなと今となっては思います。

■論文は、満足のいく出来でしたか？

それなりに満足しています。細かい期限があったおかげで、冗長にならずに問題点などもコンパクトにまとめることができたと思います。細かいところを見ればいろいろありますけど(笑)。

■苦労したことはありましたか？

意外にも、日本語の表現に苦労したこと。論文を書くのは卒論以来だったので、いざ日本語をきっちり書くとうつと書けなくて、先輩や先生に指摘を受けました。例えば、細かい表現や、基本的なことですが、主語述語が一致していない等です。わかりやすく論理的にきちっとした表現で書くとうつと、読みにくくなったり一文が長くなったりするので、読み直したり、他の人に見てもらったりして修正しました。日常で短いメールばかり書いていると、意識しない落とし穴みたいなものもあるので、読み直すときは内容だけじゃなく、日本語の表現だけに集中して読み直してみる時間を作ると良いのではないかと思います。文章があまり長くないように注意して、長くなる場合は主語述語が一致しているか、口語になっている箇所はないか、等を後で自分でチェックできるようにしていくというのではと思います。

それから、提出期限が事前に設けられていたとはいっても、その期限に間に合わせることが難しかったです。細かい期限に対して、余裕をもつて逆算して予定をたてられれば良かったですね。

変なところで凝ったり、だからだろ作業をする、最後慌てることになりました。10月の発表もぎりぎりまで準備していましたし、12月に院生の先輩に論文を見て貰った時は、無理を言いつつ締め切りを遅らせてもらい、先生に提出する時も、待たせてしまうことになりました。

■論文ができたあがるまでを教えてください。

僕は1年間大学院にいたので少し特殊かもしれませんが、院に入ってしまったらどの方向で論文を書いていくのかを自分の興味関心と照らし合わせながら、考えつつ、知識を身に付けて

ていきました。教科書的なものを読んでいた時期です。そして、興味の矛先が決まったら関連文献を読み始めて、論文に使うものを取捨選択し、勉強しました。修士1回生の秋には研究の方向性は定まりました。疑問点や論点なら、興味を持っている対象について勉強していけば定まりますけど、その上で、自分はどの研究を進めていこうかなると、今まで勉強してきた知識の引き出しがどれだけあるかで決まってきます。だから、大学院に入った最初の時期に、いろいろ勉強しておくことは有益だと思います。

■修論を書くうえで、吉田南総合図書館に対して要望はありますか？

論文の引用方法について調べる時に選書コーナーを使いましたが、借りたい本がない場合もありました。同時期に同じような分野の本をたくさんの方が借りることになると思うので、類書をもっと充実させてほしいと思いました。

■自分に影響を与えた本は？

サミュエル・ハンチントン「文明の衝突」(2)です。これをきっかけにいろんな理論を読むようになりました。批判もある本ですが、単純に読み物として面白かったです。

■自分にとって研究とは？

どう社会科学に自分で説明することができるか、それによってわかっていくことが広がれば、学問の発展に寄与できるものだと思います。これからも何かしら研究に関わっていきたいですね。

……Yさん、ありがとございました。……みなさん、いかがでしたか？夏休みを目前に、今の自分と先輩方の姿が重なって見えるのではないのでしょうか。

開館日程表

YOSHIDA
SOUTH
LIBRARY

00	9:00-20:00	00	10:00-15:00
00	9:00-21:00	00	10:00-18:00
00	休館(日・祝日)	00	10:00-18:00
00	定例休館日		

7月

- ◆臨時開館・開館時間延長
～定期試験開始2週間前から実施！～
- ◆21日(金)～夏季特別貸出
- ◆28日(金)
試験期のため28日(定例休館日)も開館します。

7 21日～:夏季特別貸出						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8月

- ◆夏季休館 11日(祝)～20日(日)
「環on(わおん)」も休室します。

8 8月11日-20日:夏季休館						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		



Follow me !



@yoshidasouthlib

吉田南総合図書館からのお知らせや
お役立ち情報を毎日つぶやいています。

9						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

環on 開室日程表

話せる図書館



「環on(わおん)」(人環棟1F)

開室:月～金 9:00-17:00

休室:土・日曜日・祝日

創立記念日(6/18)

冬季休業期間

卒業式の翌日～4/3, 8/11～8/20